

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大阪産業大学
設置者名	学校法人大阪産業大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計			
人間環境学部	文化コミュニケーション学科	夜・通信	0	0	14	14	13		
	生活環境学科	夜・通信			21	21	13		
	スポーツ健康学科	夜・通信			15	15	13		
国際学部	国際学科	夜・通信		0	16	16	13		
スポーツ健康学部	スポーツ健康学科 (身体教育学コース)	夜・通信		0	0	13	13	13	
	スポーツ健康学科 (スポーツ科学コース)	夜・通信				13	13	13	
	スポーツ健康学科 (地域-健康科学コース)	夜・通信				13	13	13	
経営学部	経営学科 (経営学コース)	夜・通信		0	0	16	16	13	
	経営学科 (ファッションビジネスコース)	夜・通信				25	25	13	
	商学科 (商学コース)	夜・通信				28	28	13	
	商学科 (スポーツキャリアコース)	夜・通信	38			38	13		

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令で定める 基準単位数	配置困難	
			全学 共通科目	学部 等 共通科目	専門 科目	合計			
経済学部	(経済学コース)	夜・通信	0	14	0	14	13		
	(上級キャリアコース)	夜・通信			4	18	13		
	(観光ビジネスコース)	夜・通信			0	14	13		
	(公務員コース)	夜・通信			0	14	13		
デザイン工学部	情報システム学科	夜・通信		0	0	20	20	13	
	建築・環境デザイン学科 (都市環境デザインコース)	夜・通信				58	58	13	
	建築・環境デザイン学科 (建築デザインコース)	夜・通信				58	58	13	
	建築・環境デザイン学科 (インテリアデザインコース)	夜・通信				58	58	13	
	建築・環境デザイン学科 (クラフトデザインコース)	夜・通信				50	50	13	
	建築・環境デザイン学科 (プロダクトデザインコース)	夜・通信				50	50	13	
	環境理工学科 (環境技術コース)	夜・通信				40	40	13	
	環境理工学科 (地域生態系コース)	夜・通信				40	40	13	
	環境理工学科 (環境緑化コース)	夜・通信				40	40	13	
	環境理工学科 (環境計画コース)	夜・通信				40	40	13	

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
工学部	機械工学科	夜・通信	0	0	26	26	13	
	交通機械工学科 (自動車工学コース)	夜・通信			16	16	13	
	交通機械工学科 (鉄道工学コース)	夜・通信			17	17	13	
	交通機械工学科 (交通機械コース)	夜・通信			16	16	13	
	都市創造工学科 (総合コース)	夜・通信			19	19	13	
	都市創造工学科 (構造コース)	夜・通信			23	23	13	
	都市創造工学科 (自然エネルギーコース)	夜・通信			36	36	13	
	電子情報通信工学科 (電気電子工学コース、電子情報工学コース)	夜・通信			23	23	13	
	電子情報通信工学科 (自然エネルギーコース)	夜・通信			40	40	13	
<p>(備考)</p> <p>人間環境学部は2017年度募集停止。 国際学部国際学科, スポーツ健康学部スポーツ健康学科, デザイン工学部環境理工学科は2017年度改組により届出設置。</p> <p>経営学部経営学科は2019年度に教育課程を変更。 経営学部商学科は2017年度, 2019年度に教育課程を変更。 経済学部は2017年度, 2019年度に教育課程を変更。 デザイン工学部情報システム学科は2018年度に教育課程を変更。 デザイン工学部建築・環境デザイン学科は2018年度, 2019年度に教育課程を変更。 デザイン工学部環境理工学科は2019年度に教育課程を変更。 工学部機械工学科は2019年度に教育課程を変更。 工学部交通機械工学科は2018年度, 2019年度に教育課程を変更。 工学部都市創造工学科は2017年度, 2018年度に教育課程を変更。 工学部電子情報通信工学科は2017年度, 2018年度, 2019年度に教育課程を変更。</p>								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.osaka-sandai.ac.jp/info/public/archive/2019.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

該当なし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪産業大学
設置者名	学校法人大阪産業大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.osaka-sandai.org/src/pdf/officer_councilor.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	元エネルギー関係企業 副社長	平成29年6月 1日～令和2年 5月31日	法人業務の総理
非常勤	附属高校同窓会副会長	平成30年6月 1日～令和2年 5月31日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	元鉄鋼関係企業社長	平成29年6月 1日～令和2年 5月31日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	元報道機関役員	平成29年6月 1日～令和2年 5月31日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	元金融機関副社長	平成29年6月 1日～令和2年 5月31日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	運輸サービス関係企業 役員	平成29年6月 1日～令和2年 5月31日	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪産業大学
設置者名	学校法人大阪産業大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
【作成過程】	
シラバスの作成に際しては、入力必須項目(授業計画、達成目標、成績評価基準など)を記載した作成要領を専任教員、特任教員および非常勤講師に配布し、執筆を依頼している。入力必須項目は教授会における承認事項のため、全学的に検討された内容となっている。	
また、各授業のシラバスについては各学科の専任教員が必要事項を満たしているか第三者によるチェックをしており、不十分な内容であった場合は担当教員に再度執筆を依頼するなど内容の充実も図っている。	
【作成・公開時期】	
作成期間については、例年1月中旬～2月初旬に実施し、2月下旬～3月中旬にシラバスの点検を行っている。確認や修正作業を経た後、在学生の履修申請が可能となる3月下旬から公開している。	
以上のことは、各学部等で同様の取扱いをしている。	
授業計画書の公表方法	https://j29-asw.osaka-sandai.ac.jp/uniasv2/UnSSOLoginControlFree
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
本学における学士課程の授業科目は、各開講学科の卒業の認定に関する方針における位置付けを履修系統図で示しており、また、卒業の認定に関する方針および教育課程の編成及び実施に関する方針に則した授業内容や到達目標を設定し、授業計画で公表している。	
単位授与・成績評価の際は、これらを踏まえて、授業計画で併せて公表している成績評価基準に基づき到達度を評価している。	
以上のことは、各学部等で同様の取扱いをしている。	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 客観的な指標の設定については「大阪産業大学GPA制度の取扱いに関する規程」において、以下の計算式に基づき年度毎及び累積のGPAを算出し、卒業判定・進級判定の各資料により教員間で共有するとともに、成績表に掲載し学生にも明示している。</p> $\text{GPA} = (\text{4} \times \text{Sの取得単位数} + \text{3} \times \text{Aの取得単位数} + \text{2} \times \text{Bの取得単位数} + \text{1} \times \text{Cの取得単位数}) \div \text{履修申請総単位数}$ <p>(小数点第4位以下切り捨て。履修申請総単位数には教職課程科目等の卒業要件単位数に算入されない科目の単位も含む。)</p> <p>GPA制度の趣旨や算出方法については、学生に配布するHANDBOOK(履修要項)に掲載するとともに、Webサイトで公表している。 また、本学学則及び「大阪産業大学GPA制度の取扱いに関する規程」により、GPAによる退学勧告制度を設けている。 以上のことは、各学部等で同様の取扱いをしている。</p>	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.osaka-sandai.ac.jp/life/ins/b_bord/report.html
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 本学の卒業の認定に関する方針は、『学士課程教育の構築に向けて』(2008年中央教育審議会答申)で示された「学士力」指針や、日本学術会議による「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準」を参考にしながら、学科ごとにそれぞれの専攻分野の特性を踏まえて策定し、公表している。 また、学科ごとに策定している履修系統図により、卒業の認定に関する方針と教育課程の関係を明示しており、それに基づき所定の単位を修得した学生について学修成果を認め、各学部の卒業判定会議を経て卒業認定及び学位授与を実施している。 以上のことは、各学部等で同様の取扱いをしている。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.osaka-sandai.ac.jp/info/public/policy/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大阪産業大学
設置者名	学校法人大阪産業大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.osaka-sandai.org/wp-content/uploads/2019/06/finance_2.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.osaka-sandai.org/wp-content/uploads/2019/06/finance_2.pdf
財産目録	https://www.osaka-sandai.org/wp-content/uploads/2019/06/finance_7.pdf
事業報告書	https://www.osaka-sandai.org/wp-content/uploads/2019/06/H30jigyhouhoukoku.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.osaka-sandai.org/wp-content/uploads/2019/06/finance_6.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 令和元年度 事業計画 対象年度: 令和元年度)
公表方法: https://www.osaka-sandai.org/wp-content/uploads/2019/06/R1jigyoueikaku.pdf
中長期計画(名称: 第一期中期事業計画 対象年度: 令和元年度~令和3年度)
公表方法: https://www.osaka-sandai.org/wp-content/uploads/2019/07/jigyoueikaku.pdf
中長期計画(名称: 学校法人大阪産業大学 Vision 100 対象年度: 令和元年度~令和10年度)
公表方法: https://www.osaka-sandai.org/src/pdf/vision100.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.osaka-sandai.ac.jp/info/inspection/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.osaka-sandai.ac.jp/info/inspection/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

② 学部等名 人間環境学部 文化コミュニケーション学科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/life/ins/distr/book/)
(概要) 文化コミュニケーション学科は、日常生活様式としての「文化」および個々の文化成員がそれを受け継ぎ体系化していくための「コミュニケーション」について、様々な視点から探究し、より豊かな人間性を獲得し、多面的な社会のあり方を受容し、よりよい社会の構築に寄与する能力を修得させることを教育目標とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/he/dce/policy.html)
(概要) 文化コミュニケーション学科では、カリキュラムに則って学習した結果、所定の単位を修得し、コミュニケーション能力や他者との協調力など、社会人として身につけておくべき能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/he/dce/policy.html)
(概要) 文化コミュニケーション学科では、本学科の教育理念に基づき、実践的・体験的教育を重んじるとともに、初年次から卒業までの一貫性教育を通して、学生が段階的に実力を獲得できるようなカリキュラムを編成します。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/he/dce/policy.html)
(概要) 文化コミュニケーション学科が求める学生は、人間とその環境に深く関心をもち、健全な人間環境の形成に貢献できる人間力溢れた人材です。社会に活かせる様々な問題と課題に対して、自ら主体的に取り組むことを望む学生に広く門戸を開いています。

学部等名 人間環境学部 生活環境学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/life/ins/distr/book/)</p>
<p>(概要) 生活環境学科は、住まいから都市・地域に至る多様な生活環境を科学的に理解することを基本とし、よりよい人間環境や自然環境の形成や地球環境の保全に資する能力を修得させることを教育目標とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/he/du/policy.html)</p>
<p>(概要) 生活環境学科では、生活環境の課題解決能力を身に付けた人材の育成をめざして策定されたカリキュラムに則って学習した結果、所定の単位を修得した学生、すなわち、コミュニケーション能力、自ら課題解決に向かう行動力、チームとなって共同の目標を達成する力など、社会人として身につけておくべき能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与します。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/he/du/policy.html)</p>
<p>(概要) 生活環境学科では、生活環境を総合的・多面的に理解するため、自然環境、社会環境、都市環境、および環境技術分野の科目を厳選してバランスよく提供していきます。また、初年度におけるコンピュータ演習や、基礎スキル演習による基礎的な学習技術や自己管理能力の習得に続いて、2年次以降は実践的能力の育成に重点を置き、フィールド・スタジオワークおよび卒業研究を柱とする専門科目の履修を通じて、専門性と人間性の定着を目指します。また、全学年を通じてキャリア教育を実施し、就職力や社会人としての能力の育成を意識した科目や資格講座などの提供を積極的に行っていきます。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/he/du/policy.html)</p>
<p>(概要) 生活環境学科が求める学生は、人間と生活環境のかかわりについて深い関心と洞察力をもち、健全な人間環境の形成に貢献できる人間力溢れた人材です。社会に活かせる知識と技量を養う意欲のある学生、課題に自ら取り組む実践力を鍛えたい学生に広く門戸を開いています。さらに、教員の研究・社会活動の活発化によって、学科の社会的評価を上げながら、特色あるAO入学試験や高大連携などを通じた積極的な学生の獲得を目指します。</p>

学部等名 人間環境学部 スポーツ健康学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/life/ins/distr/book/)</p>
<p>(概要) スポーツ健康学科は、環境の中で「人間」がよりよく生きるとはなにかを総合的に理解し、スポーツ科学と健康科学の両面から人間の生活の質を向上させるための教育研究を実施する。また、その成果をもって社会全般を支援できる能力を修得させることを教育目標とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/he/spo/policy.html)</p>
<p>(概要) スポーツ健康学科では、教育方針に沿って策定されたカリキュラムに則って学び、学習のまとめとして卒業研究を行い、所定の単位を修得し、リーダーシップ、フォロワーシップ、コミュニケーション能力を身に付けたものに卒業を認定し、学位を授与します。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/he/spo/policy.html)</p>
<p>(概要) スポーツ健康学科では「実践からの学び」を教育の柱とし、充実した実践教育を行います。スポーツ支援コース、健康支援コース、健康・スポーツマネジメントコースでは専門性を高め、実践科目では実技または現場を経験するカリキュラムを編成し、卒業研究へと発展させることを教育課程編成・実施の方針としています。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/he/spo/policy.html)</p>
<p>(概要) スポーツ健康学科では、人間とその環境に深い関心を持ち、スポーツを通じて人の幸せに寄与することを希望する学生や、スポーツ健康の専門知識および技術を身につけて社会に貢献したいと志す学生を求めています。</p>

学部等名 国際学部 国際学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/in/in/policy.html)</p>
<p>(概要) 国際学部は、本学の建学の精神および実学的伝統に根ざし、実用的な外国語能力と確かな日本語の力を基盤とするコミュニケーション力を養うとともに、異なった文化的背景をもつ人びとと協働・共生し、地域社会と国際社会に貢献できる創造性豊かな職業人を育成することを教育研究上の目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/01P_20190529.pdf)</p>
<p>(概要) 国際学科では、平和で豊かな国際社会の創造に貢献することを目指す社会人としての意識の涵養という教育目標に基づき、以下の知識・能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（国際学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語に関する知識と運用能力 日本語または特定の外国語に関する基本的知識と理解、およびこれを用いたコミュニケーション能力 2. 国際文化の理解 世界諸地域の文化・歴史・社会や国際情勢に関する基本的知識と理解 3. 共生意識 世界諸地域と自国、もしくは自分との関係を問い直し、共生意識を育むための知識と理解 4. 社会性 他者との協調のもとに行動、実践し、協働作業に責任をもって取り組む能力 5. 課題解決能力 自らが主体的に課題を立て、これまで獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用することによって、これを解決する能力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/01P_20190529.pdf)</p>
<p>(概要) 国際学科では、ディプロマ・ポリシーで示した知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、課題解決能力などを身に付けるため、以下のような教育課程を編成・実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際学科の教育課程は「総合教育科目」「専門教育科目」「実践教育科目」の3つの科目区分によって構成されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・「総合教育科目」は、教養教育科目、言語文化科目からなります。学士課程に相応しい幅広い学問分野の素養を身につけるとともに、本学科での専門教育を念頭に置いた基礎学力を養います。 ・「専門教育科目」は、国際学部共通科目、専門演習科目、研究科目、卒業プロジェクトからなります。国際学部共通科目で言語文化およびコミュニケーション学の理論と国際社会の今日的課題を学ぶ一方、専門演習科目・研究科目に英語分野、日本語分野、中国語分野、国際・地域研究分野を設け、各言語・地域の専門性に特化した知識と言語能力を修得します。また学士課程での学びの成果を総合的に活用するための卒業プロジェクトの学修を義務づけます。 ・「実践教育科目」では、アクティブ・ラーニングの手法を積極的に導入し、専攻分野への理解と関心を深めるとともに、課題の発見、調査、分析、解決などの能力を育成します。

2. 各科目の配当年次は、次のように定めます。

- ・1年次は、「総合教育科目」中の大部分の科目、「専門教育科目」の一部科目、「実践教育科目」では「入門ゼミ1・2」などの導入科目を履修し、大学での学修に必要な基礎学力を身につけます。
- ・2年次は、「総合教育科目」では言語文化科目の一部科目、「専門教育科目」の多くの科目、「実践教育科目」では「リサーチ・リテラシ演習1・2」など多様なアクティブ・ラーニング系科目を履修し、専門教育への意識を高め、スタディ・スキルをさらに向上させることを目指します。
- ・3年次は、「専門教育科目」の多くの科目を中心に履修します。とくに「ゼミナール1・2」では、1・2年次を通じて修得してきた専攻分野に対する基礎的な理解を、演習形式の授業を通じて、より専門的な知見へと発展させます。
- ・4年次は、「卒業プロジェクト演習1・2」など「専門教育科目」の一部科目を履修し、大学での学びの集大成を行います。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/01P_20190529.pdf)

(概要)

国際学科では、本学科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに共感、賛同する以下のような人材を受け入れます。入学者選抜にあたっては志願者の長所、可能性に着目することを旨とし、厳正に実施します。

(求める学生像)

1. 基礎的・基本的な知識・技能

- ・高等学校までに学んだ教科・科目について、教科書レベルの基本的な知識・技能を身に付けている。
- ・とくにさまざまな言語文化を学ぶうえでのベースとなる国語・英語、国際社会や異文化への理解を深めるために必要な地歴・公民については、教科内容の十分な理解と基礎学力を有する。

2. 思考力・判断力・表現力等

- ・学んだ知識を活用して、課題を解決するために論理的に思考し、その結果を表現することができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- ・日本を含む世界の言語・文化・社会に強い興味を持ち、前向きに学ぼうという意欲を有する。
- ・言語・文化・国籍などの違いを互いに認め合い尊重する多文化共生社会の実現に強い動機を持つ。

<p>学部等名 スポーツ健康学部 スポーツ健康学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/sh/sh/policy.html)</p>
<p>(概要) スポーツ健康学部では「スポーツで人々を幸せに！」をスローガンに、「偉大なる平凡人たれ」の建学精神に基づき、スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会に貢献できる「スポーツマインド」を有した人材の育成に資する教育・研究を行う。具体的にはスポーツ健康学科では1) 保健体育科教諭、2) スポーツ指導者、3) 健康増進活動を支援できる人材、さらには、4) 地域のスポーツ振興を担える人材を輩出することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/02T_20190529.pdf)</p>
<p>(概要) スポーツ健康学部では、地域社会や学校教育現場における子どもの体力づくりやアスリートの競技力向上、また高齢者の健康寿命の延伸などを支援するだけでなく、スポーツを通して活気のある社会をつくることを目標とし、自発的に協働できる人材、つまり「新しい公共」の担い手となる以下のような実践的指導力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（体育学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門的知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 体育・スポーツ・健康科学の専門知識を身につけている。 2) 異なる文化や価値観を理解しようとするための学士として多様かつ必要な教養を身につけている。 2. 汎用的技能 <ol style="list-style-type: none"> 1) 特定の外国語を用いて最低限度のコミュニケーションを図ることができる。 2) ICTを用いて情報を収集・集計・分析し、最適な方法で表現できる。 3) 実践の場で起こっている事柄について、客観的な視点から分析し、問題を解決するための方略を創造できる。 4) 初めての事柄について真摯に向き合い、学ぼうとする姿勢を身につけている。 3. 志向性 <ol style="list-style-type: none"> 1) 集団の一員として役割やルールを理解し協働できる能力を身につけるとともに、高い身体能力を獲得している。 2) 集団および個人で設定した目標に対してプロセスを重視しながら実現していく態度を身につけている。 3) 指導者としての科学的根拠に基づく知識とスキルを身につけている。 4) 指導者としての倫理観を身につけている。 5) 次世代に繋げるための体育・スポーツ・健康科学を創造する態度を身につけている。 4. 創造的思考力 <ol style="list-style-type: none"> 1) 体育・スポーツ・健康科学領域で体系化された理論と、実践により身につけた身体知を活かし、社会の要請に応える資質を備えている。 2) 学修内容を活字にして表現することができる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/02T_20190529.pdf)</p>
<p>(概要) 現場で活躍するスポーツ・健康科学の専門家を育成するべく、実践教育の中での専門性を高めるために以下のように教育課程を編成します。 ・スポーツ健康学部のカリキュラムは「総合教育科目」「専門教育科目」「実践教育科目」により構成される。</p>

- ・「総合教育科目」は、1・2年次に配当されており、学士としての基本的知識・教養を身に付けることだけでなく、スポーツ・健康科学の隣接領域についても理解し、学生自身が将来的に主専攻とリンクさせて考えて、新しい領域へと発展できる礎をつくることを目指す。
- ・「専門教育科目」は1・2年次に配当されている「専門基礎科目」、主に2・3年次に配当されている「専門応用共通科目」「専門応用コース科目」、3・4年次配当の「専門研究」から構成され、段階的に基礎から応用へ、そして専門性の深化を目指す。
- ・「専門応用コース科目」は、2年次から4年次までに配当されており、コース名「身体教育学コース」「スポーツ科学コース」「地域-健康科学コース」の科目群に区分し学年を追うごとに専門的にかつ 広く応用できることを目指す。
- ・「実践教育科目」は「リテラシ科目」「学部科目」「キャリア科目」からなり、実学という側面から専門教育へのアプローチを目指す。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/02T_20190529.pdf)

(概要)

スポーツ健康学科では、本学科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに共感、賛同する以下のような人材を求めます。

(求める学生像)

1. 基礎的・基本的な知識・技能
 - ・高等学校までに学んだ各教科等の基礎的な知識・技能を身に付けていること。
2. 思考力・判断力・表現力
 - ・学んだ知識を活用して、課題を解決するために論理的に思考し、その結果を表現することができること。
3. 主体的に学習に取り組む態度
 - ・集団あるいは個人での身体活動の楽しさを体得し、スポーツ活動を実践できること。
 - ・「スポーツで人々を幸せに」するために、体育、スポーツ、健康に関する知識や技能を他者のために発揮しようとする者。

なお、上記に加え、セカンドキャリア入学試験の社会人は、入学時に2年以上のトップリーグ経験※を有し、入学時に満20歳以上に達し、大学入学資格を有する者を対象とします。また、編入学試験では、健康、運動、体育、スポーツに関する基礎的な知識・技能を有するとともに、短期大学または大学で学んだことをさらに深め、運動やスポーツを通して社会に貢献しようとする者を対象とします。

※トップリーグ経験とは、例えば、実業団や球技種目等のトップリーグに所属するチームなど、各スポーツ種目におけるプロフェッショナルまたはそれと同等の組織に属していたことを示します。

学部等名 経営学部 経営学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/bm/adm/policy.html)</p>
<p>(概要) 経営学科は、本学の建学の精神である「偉大なる平凡人たれ」に基づき、社会のさまざまな場面や役割を通して、人々の協働活動に貢献しうる下記のような人材を養成することを教育研究上の目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 組織の管理や戦略活動に関する基礎知識を持つ人材。 2. 経営活動を適切に記録、測定、分析を行いうる人材。 3. さまざまな産業分野に関する幅広い知識を持つ人材。
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/03-01B_20190529.pdf)</p>
<p>(概要) 経営学科では、多様化する現代社会のニーズに対応するための有用な能力を習得させる教育目標に基づき、経営学ならびに会計学に関する基礎知識を体系的に理解し、活用できることを求めています。また、それらの基礎知識の習得とともに、組織構成員に目的や使命感を与えること、綿密なコミュニケーションを図り、組織体の目的が達成できるような組織活動に貢献しうる以下の知識・能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（経営学）の学位を授与します。</p> <p>① 一般教養 教養や外国語など社会で活躍する上で必要な知識を備えている人材</p> <p>② コミュニケーション能力 組織の中において一般教養や専門的知識に基づき、他者と協調・協働して行動でき、主体的、かつ責任ある行動や意見を述べることができる人材</p> <p>③ 専門的基礎知識と環境への対応力 経営学ならびに会計学に関する基礎知識を備え、変動する現代社会のように、状況変化に対応できる判断力と論理的思考力を備えている人材</p> <p>④ 社会で通用する専門性 経営学ならびに会計学に関する基礎知識とともに、以下の専門知識のいずれかの内容を習得している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営管理、経営戦略、経営組織に関する知識を備えている。 ・商品・サービス開発やマーケティングに関する知識を備えている。 ・企業や様々な組織体の会計に関する知識を備えている。 ・ファッションビジネスに関する知識を備えている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/03-01B_20190529.pdf)</p>
<p>(概要) 経営学科では、ディプロマ・ポリシーで示した基礎知識の習得や企業や非営利組織体などの様々な組織体の運営という社会で欠かせない知識を身に付けるため、以下のような教育課程を編成・実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営学科の教育過程は、「総合教育科目」および「専門教育科目」を設け、年次ごとに段階的な学習ができる体系的なカリキュラムを構築しています。 <ul style="list-style-type: none"> ・「総合教育科目」は、教養教育科目、言語文化科目および身体科学科目からなります。学生課程に相応しい幅広い学問分野の素養を身につけるとともに、経営学科の専門教育の学習にあたっての基礎学力を養います。 ・「専門教育科目」では、各コース共通の専門基礎科目、ゼミナール科目、キャリアスキル科目、ビジネススキル科目、経営関連科目、会計・法律関連科目、テーマ別研

究科目を設けるとともに、ファッションビジネスコース生を対象とした「特設科目」を設定しています。また、テーマ別研究科目では、「特定産業研究」、「経営学特殊講義」および「会計学特殊講義」、ファッションビジネスコース特設科目では、「ファッションビジネス特殊講座」を設け、様々な業界に関する実践的な内容やフィールドワークを実施し、多面的な教育を行い、組織の協働活動に貢献しうる学生を育成します。

2. 各科目の配当年次は、次のように定めています。

1年次では、総合教育科目と経営学科における基礎的、入門的な科目を配置する。

2年次では、専門教育科目、特に基幹科目とゼミナール科目を配置する。

3年次では、専門教育科目、基幹科目を踏まえた発展科目・応用科目、ゼミナール科目を配置する。

4年次では、卒業論文の作成を目的としたゼミナール科目を配置する。

経営学科経営学コースでは、1年次全学生向けに「経営学基礎」および「会計学基礎」、「簿記基礎」といった経営学の基礎知識を修得します。経営学コース2年次から個別専門科目毎に、基礎的内容の理解の深化を図るとともに、「研究ゼミナール」やキャリア養成に関する講義の場を通して、論理的説得力などのコミュニケーション能力などの向上に努めるようにします。

ファッションビジネスコース生に対しては、「ファッションビジネス入門」などのファッション業界に関する基礎知識を習得させ、一般社団法人日本衣料管理協会の定める2級衣料管理士の認定が可能な科目編成を行っています。

これにより、ディプロマ・ポリシーに掲げる専門知識が修得できるとともに、組織体で活躍する中核的な人材を送り出すことができます。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/03-01B_20190529.pdf)

(概要)

経営学科では、企業のみならず様々な組織体で活躍する人材を育成します。したがって、株式会社をはじめとする営利企業、地方自治体や政府関連機関、公益法人などの非営利組織体など幅広い組織体で活躍できる人材の育成を目標としています。経営学科では、本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに共感、賛同する以下のような人材を受け入れます。

(求める学生像)

1. 基礎的・基本的な知識・技能

・高等学校までに学んだ教科・科目について、基本的な知識・技能を身につけている。

2. 思考力・判断力・表現力等

・学んだ知識の論点を整理し、その知識を活用して、組織活動においてコミュニケーションを図ることができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

以下のような意欲のある人を求めます。

(入学前)

・明確な目的意識をもち、主体的に勉学や他者との協働に取り組むことができる人

(入学後)

・経営活動で必要とされる専門知識を主体的、継続的に学び、それらを高めていく意識を持つ人

・身に付けた知識・能力を他者との協働の場で提供し、他者とそれらを相互に高めあうことができる人

・自らの考えや意見を他者に論理的に伝える方法を自ら改善していく努力ができる人

学部等名 経営学部 商学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/bm/dis/policy.html)</p>
<p>(概要) 商学科は、専門知識の修得と独立心やコミュニケーション能力の向上により、経済社会システムの最適化のために最適な流通システムを構築・提案しうる能力社会で信頼される人材を育成することを教育研究上の目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/03-01C_20190529.pdf)</p>
<p>(概要) 商学科では、グローバル化、IT化、大競争時代という激動する中で、経済社会システムの最適化のために最適な流通システムを理解するために必要な一般教養、表現力、専門知識、社会で通用する専門性に関する能力を習得します。加えて、スポーツキャリアコースでは、卒業後スポーツ・ビジネスで活躍するビジネスパーソンとして必要なスポーツに関する専門知識を習得します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一般教養 将来の商学の専門的な学習に備えて、ビジネスパーソンとして必要な教養や外国語などを身につける。 2. 表現力 少人数による演習科目などで課題に対して資料を読み、分析し、発表することで、分析力の向上とともにプレゼンテーション能力を養う。 3. 専門基礎知識 IT化・グローバル化した現実の企業活動と結びついた「ヒト、モノ、カネ、情報」の流通に関する専門基礎知識を習得する。加えて、スポーツキャリアコースでは、スポーツに関する専門基礎知識を習得する。 4. 社会で通用する専門性 グローバル化、IT化、大競争という激動する中で、経済社会システムの最適化のために最適な流通システムを理解する能力を習得する。加えて、スポーツキャリアコースでは、卒業後スポーツ・ビジネスで活躍するビジネスパーソンとして必要なスポーツに関する専門知識を習得する。 <p>以上のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（経営学）の学位を授与します。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/03-01C_20190529.pdf)</p>
<p>(概要) 商学科では、ディプロマ・ポリシーに基づき、初年次において社会人基礎力となる幅広い教養を涵養した上で、IT化・グローバル化した現実の企業活動と結び付いた「ヒト、モノ、カネ、情報」の流通の仕組みを学び、現代経済社会の激動に対応し、行動しうる能力を身に付けさせるという教育目標に基づき以下のようなカリキュラムを編成しています。加えて、スポーツキャリアコースでは、卒業後スポーツ・ビジネスで活躍するビジネスパーソンとして必要なスポーツに関する専門知識を身に付けさせるという教育目標に基づき以下のようなカリキュラムを編成しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 年次では基礎力養成を目的として、入門演習などから始め、商学のセンスを磨く。 2 年次では応用力養成を目的として、4つの履修モデルをベースに興味ある分野の専門性を追求する。 3 年次では実践力養成を目的として、専門性をさらに深め、グローバル化やIT化に対応する。

4年次では総合力養成を目的として、演習や企業・業界研究に取り組んで卒論を作成する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/03-01C_20190529.pdf)

(概要)

商学科では、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、以下のような人を求めます。

【求める学生像】

経営ビジネスとその創造に関心を持ち、大学の勉学でそれを熱く学びたいという強い意識を持つ学生を募集します。加えて、スポーツキャリアコースでは、スポーツ・健康と経営を横断的に学び、豊富な知識とスキルをもって広く社会に貢献できるビジネスパーソンを育成します。スポーツイベントの企画や運営、スポーツ用品の商品企画、営業・販売などを含むあらゆるビジネスの場において、あふれるスポーツマインドを発揮したいと考える学生を求めます。

学部等名 経済学部 経済学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/eco/eco/policy.html)</p>
<p>(概要) 経済学科は、情報化・国際化が進展する経済社会を対象として、経済社会システムの諸側面に注目して研究を行い、その仕組みを明らかにすることを研究上の目的とする。そしてそこで得た知見に基づいて、経済の基礎知識と経済社会の仕組みとを理解し、変容を続ける現代社会を読み解く能力を持つと共に、社会の諸課題に立ち向かい、将来を開拓する責任ある主体を育成することを教育上の目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/04-01E_20190529.pdf)</p>
<p>(概要) 経済学の基礎知識を学んだ上で、情報化・国際化に対応した講義や就職を意識したインターンシップ、キャリア教育関連科目などを通じて、実践的な科目を修得し、以下に示す幅広い知識・能力を習得し、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（経済学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解 「企業経済」、「産業構造」、「生活経済」、「社会福祉」、「財政」、「金融」、「環境」などのより具体的な対象において、経済学がどのように活用されているのかを理解することができる。 2. 汎用的技能 <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーション・スキル 日本語と特定の外国語を用いて自分の意見を表現でき、また他者の意見を理解することができる。 ・ 数量的スキル 経済学の基本的な知識を数量的に説明することができる。 ・ 論理的思考力 経済理論の知識を踏まえて社会の変化を捉え、時事問題等について自分の見解を述べ、異なる意見と比較することができる。 ・ 問題解決力 新たに直面した問題に対し、自らの知識・経験を生かしつつ、関連する情報を収集・分析し、その解決に向けて行動することができる。 3. 態度・志向性 <ul style="list-style-type: none"> ・ チームワーク、リーダーシップ 自らが所属する組織の課題解決に向けて、メンバーと協調しつつ、責任感を持って積極的に行動することができる。 ・ 市民としての社会的責任 経済社会に関わる人々の多様性を理解し、経済学の知識を用いて、社会の発展のために行動できる。 ・ 生涯学習力 現実の諸問題に深い関心を持ち、問題解決のために必要な知識・資源を獲得することが出来る。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/04-01E_20190529.pdf)</p>

<p>(概要)</p> <p>経済学部生として「経済学入門科目」、「経済学基礎科目」、「総合教育科目」を1、2年次に履修した後、自らの関心に基づいて3年次から経済学科に配属された学生に対しては、2年間で培った経済学の考え方をさらに専門的かつ実践的に身に付け、経済の仕組みをより詳細に分析するための科目として「経済学科展開科目」が配置されています。</p> <p>「経済学科展開科目」は、「経済学科目」、「福祉・社会経済学科目」、「金融・財政科目」、「ビジネス・ベンチャー科目」、「特別科目」が配置されています。これらの科目群は、「景気」、「高齢化」、「格差社会」、「環境」、「福祉」、「企業活動」、「金融」、「財政」、「情報」などのキーワードを手助けとしながら、各分野における経済理論とその具体的な応用について理解を深めます。</p> <p>また、3年次からは、経済学部における学びの集大成としての「卒業論文」の作成・提出を行うため、「演習」を履修します。「演習」では、少人数による報告、議論を繰り返すことによって説得力を伴って自分の見解を表明できる能力の獲得を目指します。</p> <p>そして、4年次には「卒業論文」を執筆し、「演習」担当教員の指導を受け合格することで卒業を目指します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/04-01E_20190529.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>経済学部は、変動する経済社会に対応できる人材を教育することを目標として、「経済学科」と「国際経済学科」から構成されており、両学科とも、経済社会のさまざまな変化に迅速に対応するとともに、経済社会の課題を解決しようとする意欲をもった学生を募集しています。このため、経済学部では両学科一括で学生募集を行い、2年間で修得した経済学の基礎的知識と学生自身の興味関心に基づいて、各自が所属する学科を決定します。そこで、経済学部では、経済学部、経済学科、国際経済学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づいて、下記のような資質を持つ人の入学を募っています。</p> <p>●求める学生像</p> <p>(1) 基礎的・基本的な知識・技能について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語の基本的な読む・書く・聞く・話す能力 2. 外国語の基本的な読む・書く・聞く・話す能力 3. 地理歴史公民分野の基礎知識 4. 科学技術についての基礎知識 <p>(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人との基本的なコミュニケーションができる。 2. 日本語の基本的な論理的思考力 3. 異文化理解への関心 4. 日本や世界の社会・文化・時事問題への興味・関心 <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会の動きや日本経済、ビジネスに関心を持っていて、21世紀の社会がこれからどんな方向に進んでいくのか、きちんと学びたい学生。 2. 将来の進路についてはっきりした意志を持ち、グローバルな視野を持ちたい学生。 3. 主体的に物事に取り組み、自らの知識や経験を発展させる意欲がある学生。 <p>上記のような資質と関心を持った学生を求めするために、経済学部では、AO入試、推薦入試、一般入試、大学入試センター試験利用入試などを設け、上記の資質と関心について学力だけに偏らない多面的な評価を行って学生を募集します。</p>

学部等名 経済学部 国際経済学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/eco/in_eco/policy.html)</p>
<p>(概要) 国際経済学科は、経済社会の情報化・国際化が進展する日本および世界の経済社会を対象とし、多様性と普遍的価値の調和をめぐる諸課題を解明することを研究上の目的とする。そしてその成果をもって、建学の精神に照らして実直な努力を尊ぶ精神と経済学の学識とを融合し、私心を去って現場主義を貫き、一体化・流動化が進む国際社会を先導する力を持った人材を輩出することを教育上の目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/04-02E_20190529.pdf)</p>
<p>(概要) 経済学の基礎知識を学んだ上で、情報化・国際化に対応した講義や就職を意識したインターンシップ、キャリア教育関連科目などを通じて、実践的な科目を修得し、以下に示す幅広い知識・能力を習得し、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（経済学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 <ul style="list-style-type: none"> ・人類の文化、社会と自然に関する知識の理解 「世界の中の日本」を意識しながら国際社会において経済学がどのように活用されているかを理解することができる。 2. 汎用的技能 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション・スキル 幅広い国・地域の人々とのコミュニケーション経験を持ち、初対面の人とも日本語と特定の外国語を用いて自由に対話できる。 ・数量的スキル 日本やアジア・太平洋地域の主な国と地域について、数量的な知識を習得している。 ・論理的思考力 世界の動向や経済政策について、経済理論を踏まえて意見を述べることができ、他の意見との相違点を理解することができる。 ・問題解決力 国際間の社会的相違や関係者の意見の相違を踏まえて、問題を柔軟に解決することができる。 3. 態度・志向性 <ul style="list-style-type: none"> ・チームワーク、リーダーシップ 日本を含む諸国の人々を尊重し、チームワークを維持することができる。 ・市民としての社会的責任 日本を含む諸国の事情に対する知識を持ち、異なる社会的背景を持った人々を尊重して協調的に行動できる。 ・生涯学習力 国際社会の諸問題に深い関心を持ち、問題解決のために必要な知識・資源を獲得することができる。

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/04-02E_20190529.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>3年次から国際経済学科に配属された学生は、1、2年次に「経済学入門科目」および「経済学基礎科目」で培った経済学の考え方を、「世界の中の日本」や「アジアの中の日本」といった国際的な枠組みの中で活用するための学びを進めることとなります。</p> <p>そのために、「国際コミュニケーション科目」「国際・地域経済系科目」、「国際ビジネス科目」「マルチメディア・ビジネス科目」が配置されています。これらの科目群では、東アジア、東南アジア、アメリカ、ヨーロッパなどの「諸国の経済と社会」、「貿易」、「国際協力」、「国際開発」、「国際金融」などのキーワードを手助けとしながら、それぞれの地域の経済事情と各地域の経済と社会を読み解くための概念や理論について専門的に学んでいきます。これらの学習・研究を通じて、具体的な国際経済の現実と具体的な分析手法についての理解を深めます。</p> <p>また、3、4年次を通じて全員が「演習」を履修し、各指導教員の指導の下で専門的な研究・実習を行います。「演習」では、資料読解、意見の形成と発表、討論の能力を訓練し、主体的な研究能力と協調性を学びます。そして研究の最終成果として「卒業論文」を執筆し、「演習」担当教員の指導を受け合格することで卒業を目指します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/04-02E_20190529.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>経済学部は、変動する経済社会に対応できる人材を教育することを目標として、「経済学科」と「国際経済学科」から構成されており、両学科とも、経済社会のさまざまな変化に迅速に対応するとともに、経済社会の課題を解決しようとする意欲をもった学生を募集しています。このため、経済学部では両学科一括で学生募集を行い、2年間で修得した経済学の基礎的知識と学生自身の興味関心に基づいて、各自が所属する学科を決定します。そこで、経済学部では、経済学部、経済学科、国際経済学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づいて、下記のような資質を持つ人の入学を募っています。</p> <p>●求める学生像</p> <p>(1) 基礎的・基本的な知識・技能について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語の基本的な読む・書く・聞く・話す能力 2. 外国語の基本的な読む・書く・聞く・話す能力 3. 地理歴史公民分野の基礎知識 4. 科学技術についての基礎知識 <p>(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人との基本的なコミュニケーションができる。 2. 日本語の基本的な論理的思考力 3. 異文化理解への関心 4. 日本や世界の社会・文化・時事問題への興味・関心 <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会の動きや日本経済、ビジネスに関心を持っていて、21世紀の社会がこれからどんな方向に進んでいくのか、きちんと学びたい学生。 2. 将来の進路についてはっきりした意志を持ち、グローバルな視野を持ちたい学生。 3. 主体的に物事に取り組み、自らの知識や経験を発展させる意欲がある学生。 <p>上記のような資質と関心を持った学生を求めるために、経済学部では、AO入試、推薦入試、一般入試、大学入試センター試験利用入試などを設け、上記の資質と関心について学力だけに偏らない多面的な評価を行って学生を募集します。</p>

<p>学部等名 デザイン工学部 情報システム学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/dt/ise/policy.html)</p>
<p>(概要) 情報システム学科は、高度情報化社会において重要となる「人に優しい」感性的な評価の情報処理を基に、ネットワーク、組込みシステム、Web システム、感性デザイン、CG・アニメーションといった情報システム産業に関わる基礎技術の教育研究を実施する。また、コンテナ系とコンテンツ系の諸技術を新しい視点から科学的に探求し、高度情報化社会に貢献できる応用能力と実践能力を備えた人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/05-01H_20190529.pdf)</p>
<p>(概要) 情報システム学科では、「人に優しい」情報システムの構築での活躍できる感性・創造力、情報システム産業に関する技術に対する幅広い視野、高度情報化社会に貢献できる実践力、感性的思考と論理的思考を養うという教育目標に基づき、以下の知識・能力を身に付け、かつ所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソフトウェア設計、ネットワーク、組込みシステムといったコンテナ系の情報技術の基礎知識を身に付けている。 2. Web システム、感性デザイン、CG・アニメーションといったコンテンツ系の情報技術の基礎知識を身に付けている。 3. 情報システム産業に関する社会的な需要を理解し、情報技術者としての倫理観を身に付けている。 4. 人と情報技術を繋ぐ役割を果たすためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身に付けている。 5. 情報技術による社会貢献に必要な問題発見・解決能力を身に付けている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/05-01H_20190529.pdf)</p>
<p>(概要) 情報システム学科では、「人に優しい」情報システムの構築での活躍できる感性・創造力、情報システム産業に関する技術に対する幅広い視野、高度情報化社会に貢献できる実践力、感性的思考と論理的思考を養うという教育目標に基づき、以下のような教育課程を編成・実施します。体系的な学習ができるように、コンテナ分野(ソフトウェア設計、ネットワーク、組込みシステム)とコンテンツ分野(Web システム、感性デザイン、CG・アニメーション)に各 3 コースの教科群を設定しています。そして、各分野のコースから複数コースの教科を学びます。各コースの教科は、以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 年次では情報システムの設計デザインに関する課題発見について ・ 2 年次では課題を解決するための基礎技術 ・ 3 年次で課題を解決するための応用技術を学習 ・ 4 年次で卒業研究を通して実際の課題解決に取り組む <p>また、情報システム産業の社会的な貢献を理解するために、各年次に企業から実務経験者を招聘し、理論に偏ることのない教育が行えるようにも配慮しています。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/05-01H_20190529.pdf)</p>
<p>(概要) 情報システム学科では人に優しい情報システムの構築を目指し、社会に対して幅広い視野を備えた技術者を養成するため、本学科のカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに共感・賛同し、基本的なコミュニケーション能力と協調性を有する以下のような人を</p>

求める。

(求める学生像)

1. 情報技術全般に関して深い興味を持ち、それらについて学ぶための基礎的学力を有する。
2. ネットワークや組み込みシステムの技術を積極的に習得する勉学意欲を持ち、技術を発展させるための論理的思考力を有する。
3. デジタルコンテンツ技術に関心があり、情報倫理観を持って、その開発や応用に積極的に取り組む意欲がある。
4. 「人に優しいシステム」に深い興味を持ち、人間中心設計の考え方が理解できる。
5. 専門的な情報技術を積極的に習得し、それらを用いて社会に貢献することを目指している。

学部等名 デザイン工学部 建築・環境デザイン学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/dt/edd/policy.html)</p>
<p>(概要) 建築・環境デザイン学科は、科学技術革新の急速な展開、社会環境の変貌が進んでいる現在社会において、広く社会に通じるデザインの諸問題を見出し、横断的な視点からの問題解決への提言をおこなう能力が重要となってきた。そこで、このような社会に対応した、美・アメニティ・機能を備える持続可能な環境・空間・モノを、広い視野、豊かな感性、確かな技術力・想像力に基づいてデザインし、より良い生活環境を創出できるような能力を身につけるための総合的な教育研究を実施する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/05-02M_20190529.pdf)</p>
<p>(概要) 建築・環境デザイン学科では、都市環境、建築、インテリア、クラフト、プロダクトの各々の専門分野において、美・アメニティ・機能を備える環境・空間・モノの創造を担う実務的なデザイナーを養成していくという教育目票に基づき、以下の知識・能力を身に付け、かつ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 美・アメニティ・機能を備える持続可能な環境・空間・モノを創出するデザイナーとしての基礎的な論理的思考能力、多面的造形力、確かな技術力を身につけている。 2. デザイン言語、CAD・CGを含む情報リテラシーを習得している。 3. 生活環境に対しての豊かな感性を身につけている。 4. 人を取り巻く環境に関わる課題発見・問題解決能力を身につけている。 5. 社会や人とのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけている。 6. デザイナーとしての基礎力を多様な分野に応用・展開することができ、広く社会に貢献できる力を身につけている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/05-02M_20190529.pdf)</p>
<p>(概要) 「専門教育科目」では、講義科目によって知識を与え、PBL（Practice Based Learning、実践ベース学習）すなわち演習科目によって実践的な技術力・デザイン力を養成します。そのため、コース間の差異に留意しながら、両科目群の有機的連携、および、年次間の有機的連携を保つべく科目内容を構成しています。また、キャリア教育は演習科目内で行っています。</p> <p>1、2年次では専攻コースに分かれず、段階的にデザインの各問題群に触れながら学生自らがテーマや問題を発見すると同時に、デザインの基礎となる造形的思考とコンピュータリテラシーを学び、専門分野を理解する上での必要な素養を修得します。またグループによる制作や調査によって協働する力、デザインの方法論を学びます。</p> <p>3年次で専門コースを選択し、環境・社会・資源問題や、ライフスタイルの変化に即応するものづくりに必要となる専門的知識・デザイン創出に必要なリテラシーを、専門分野を通して学びます。</p> <p>4年次では専門コースで学んだ技術や知識を総合して、人・もの・空間の本質的な関わりを追求し、新たな文化や社会的価値をもたらすデザインを具現化する能力を習得します。</p> <p>なお資格に関しては、1級建築士および2級・木造建築士受験資格等、高等教育教諭一種免許状（工業、工芸、美術）および中学校教諭一種免許状（美術）の取得に対応した教育課程を編成しています。</p>

入学者の受入れに関する方針

(公表方法 : https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/05-02M_20190529.pdf)

(概要)

建築・環境デザイン学科では、人と地球に優しい真に豊かで魅力的な環境・空間・モノの創造を目指し、幅広い多面的な視野に基づくデザイナーを養成するため、以下のような人を求めます。

1. 幅広い学びの分野、デザイン分野から自分にあった分野を見出すことのできる自主性を持っている。
2. 創造力・表現力・知識・感性を豊かにすることに対して積極的に取り組む姿勢がある。
3. 社会や環境に対して問題意識を持ち、あらゆる事柄に対する興味・好奇心を抱くことができる。

学部等名 デザイン工学部 環境理工学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/dt/est/policy.html)</p>
<p>(概要) 環境理工学科は、水、大気および土壌の環境保全およびその改善技術、生物多様性と健全な生態系の保全、地球環境科学および持続可能な社会のしくみづくりについて考究し、工学および理学に立脚した環境学の体系を総合的に教育研究する。すなわち、みどり豊かな地域環境と健全な生態系の保全、自然と共生する持続可能な社会をデザインすることができる人材を養成することをめざし、サイエンスに対する探究心と専門性を有する人材を育成するとともに、グローバルな環境問題からローカルな環境問題までの課題解決にむけた行動力と環境マネジメント力、実践的な環境技能を育成することを教育研究上の目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/05-03V_20190529.pdf)</p>
<p>(概要) 環境理工学科では、現代社会が必要とする環境学の体系を修得し、環境に対する高い専門性と柔軟な思考力を有する人材を育成するという教育目標に基づき、以下の知識・能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（理工学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 <ul style="list-style-type: none"> ・環境に関わる基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と背景となる歴史・社会・自然と関連づけて理解する。 ・環境理工学の専門的知識を理解する。 2. 汎用的技能 <ul style="list-style-type: none"> ・知的活動、職業生活および社会生活でも必要なコミュニケーション能力 ・ICT活用能力 ・情報や知識を複眼的・論理的に分析・表現できる思考力 ・問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決する能力と行動力 3. 態度・志向性 <ul style="list-style-type: none"> ・他者と協力して、行動するとともに、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員するチームワークとリーダーシップを培う 4. 統合的な学習と創造的思考力 <ul style="list-style-type: none"> ・獲得した知識・技能・態度などを総合的に活用し、地域および地球の課題を解決する能力 ・自然を解き明かし、サイエンスを探求する知識・技能・態度
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/05-03V_20190529.pdf)</p>
<p>(概要) 環境理工学科では、ディプロマ・ポリシーで示した知識・技能・態度・問題解決能力および人間力を育むという教育目標に基づき、以下のような教育課程を編成・実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境理工学科の教育課程は、初年次科目として、本学科の専門性を明確にする「フィールド教育科目」、少人数ゼミによる社会人基礎力とキャリア形成につなげる「実践教育科目」を位置づけるとともに、一般教養を学ぶ「総合教育科目」、専門的知識や技術を学ぶ「専門教育科目」を段階的にバランス良く学ぶことで、「環境技術」「地域生態系」「環境緑化」「環境計画」という4つの分野に関する高い専門性を身につけます。 2. 全学年を通じて就職力や社会人としての能力の育成を意識した科目・資格講座を提

供し、キャリア教育を実施します。

3. 高等学校教諭一種免許状（理科）および中学校教諭一種免許状（理科）の取得に向けて、実験およびフィールドワークの能力に優れた、レベルの高い教員養成のための教育を遂行します。
4. 自然環境の科学的理解を図る理学と、個別具体的な環境問題の解決を目指す工学の融合を目指す教育を行います。そのために教育理念に照らし合わせたカリキュラムは、現場（地域やフィールド）での「実践」を教育の柱の一つとしています。
5. 次代を担う科学技術系人材を育成する本学科の特性を活かして、実験およびフィールドワークの能力に優れた高校および中学校の理科教員を養成します。
6. 各科目の配当年次は、次の通りです。
 - ・1年次では、「総合教育科目」を中心に、「専門教育科目」のなかの基盤科目、「フィールド教育科目」および「実践教育科目」などを履修し、基礎学力を身につけるとともに、キャリアを見据えた実践的な科目を履修します。さらに実験および講義を含む「教職科目」もスタートします。
 - ・2年次では、「専門教育科目」の「基盤科目」に加えて「発展科目」および「演習」を学び、専門性と実践力を学びます。
 - ・3年次では、「環境技術」、「地域生態系」、「環境緑化」および「環境計画」の4つのコースにわかれ、「専門教育科目」の多くの科目を履修します。「プレ卒研」で研究室配属によって、さらに専門的な知識と理解を深め、自ら、課題解決する能力を培います。
 - ・4年次では、少人数ゼミの「卒業研究」によって自らの知的探究心を発展させます。大学の専攻に関する集大成の1年とします。

なお資格に関しては、高等教育教諭一種免許状（理科）および中学校教諭一種免許状（理科）の取得をはじめ、複数の資格取得に対応した教育課程を編成しています。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/05-03V_20190529.pdf）

（概要）

環境理工学科では、理学と工学に立脚した学問分野に興味をもち、その分野の柔軟な思考力、高い専門性および技術を用いて社会に貢献する人材を育成するため、つぎのような人材を求めます。

（求める学生像）

1. 基礎的・基本的な知識・技能
 - ・高等学校までに学んだ教科・科目について、教科書レベルの基本的な知識・技能を身につけている。
2. サイエンスとテクノロジーに対する高い興味と柔軟な思考力
 - ・地球規模から地域レベルの身近な暮らしまで、さまざまな環境問題に高い関心を有している。
 - ・環境に関するさまざまな課題に向き合い、自然科学の探求および環境保全に意欲を有している。
3. 主体的に課題にとりくむ態度と社会性
 - ・フィールド（地域）で実践的に行動し、環境問題を解決することによる社会貢献をめざしている。

学部等名 工学部 機械工学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/en/mech/policy.html)</p>
<p>(概要) 機械工学科は、まず、機械を構成している基礎的な原理や理論、さらに設計と製作に関する技術を十分に身につけさせる。その上で、グローバルな視点で、機械工学に対する社会からの要求を的確に理解し、周囲の人間と協調性を持ちながら未知の課題に対して主体的な取り組みができる技術者としての人材を育成することを教育の目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/06-01F_20190529.pdf)</p>
<p>(概要) 機械工学科は、機械工学を体系的に理解するとともに、ものづくりができる自立した機械技術者として課題解決ができ、さらにアジアを中心としたグローバルな視点に立ち、機械工学技術者としてアイデアを構築・発信することができる次の項目を満たし、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 工学の基礎的素養として、数学・物理学・化学・情報技術等の能力を修得する。 ● 機械工学の基礎的科目として、工業力学・材料力学・流体力学・熱力学等を修得する。 ● 機械工学の専門的知識とその応用方法を修得する。 ● 機械工学に関する実験や実習を通じて、各種の課題解決能力を修得する。 ● 文章や口頭発表によって自分の考えを論理的に表現することができる。 ● 設計・加工・計測に関する基礎的原理を理解している。 ● 機械や製品を創出するための設計およびデザイン能力を修得する。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/06-01F_20190529.pdf)</p>
<p>(概要) <ul style="list-style-type: none"> ● 総合教育科目と専門基礎科目を総合的に学ぶことで豊かな教養と工学基礎分野の知識を修学します。 ● 機械工学専門基礎科目と機械工学専門応用科目では、特に機械工学の基本 4 力学（材料力学、機械力学、流体力学、熱力学）を重点的に学び、これらの基礎知識に基づいた創造力豊かなものづくりを学びます。 ● 創造設計、実験実習、ゼミナール、卒業研究、および実践教育科目を通じて、自ら考えて他者とのコミュニケーションを図り協働できる力を身に付けます。 </p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/06-01F_20190529.pdf)</p>
<p>(概要) 機械工学科では、自然環境と人間社会との健全かつ調和を持った社会を構築する技術を担う人材を育成するために次のような学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ものづくりを通じて社会に貢献したいと強く望む人 ● 理系科目について興味を持ち、その素養を有する人 ● 国籍、性別、能力にとらわれず相互のコミュニケーションについて努力ができる人 ● 人間の幸福に寄与できる技術に興味を持ち、専門的に学びたい人 ● 自主的に問題を見つけて解決できる能力を向上させたい人

<p>学部等名 工学部 交通機械工学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/en/tm/policy.html)</p>
<p>(概要) 交通機械工学科は、自動車、鉄道、航空機、船舶など個々の輸送機械のみならず、それらを効率的に機能させる制御および管制のネットワークも含めた幅広いシステムについて探究する。これらの教育・研究により、交通機械とそのシステムに関する研究開発や実務に対応できる専門能力と、交通機械と人のつながりを多面的に考察し、環境問題や人々の福祉にも貢献できる能力を修得させることを教育目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/06-02G_20190529.pdf)</p>
<p>(概要) 交通機械工学科は、機械及び交通に関わる工学的な専門知識や技術、技能を習得するための専門基礎科目、応用科目、実験・実習科目、専門分野や専門知識と社会の関連性などについて学ぶ実践科目、専門知識の活用等に必要な幅広い教養を身に着けるための教養科目、自ら課題を発見し解決する能力やその過程や結果を表現する能力を養うための卒業研究を課しています。これらを履修して単位を修得し、卒業論文の提出及び発表を行って以下の項目に挙げる能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械工学とその関連分野の基礎・原理を体系的に理解している。 ・自動車や鉄道など交通機械分野における自身の主領域の機器やシステムの構造、動作原理を理解している。 ・専門知識を生かす人文・社会科学の教養と自然科学の基礎を備え、自身の専門分野と社会の関わりについて自らの考えを有している。 ・実経験や情報、データを基に課題を発見し、専門知識を活用して段階的に対応できる。さらに実験や考察の内容、結果を口頭及び文書として、順序立てて表現することができる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/06-02G_20190529.pdf)</p>
<p>(概要) 交通機械工学科は、「自動車工学コース」、「鉄道工学コース」、「交通機械コース」の3コースを設置しています。すべてのコースにおいて、機械工学とその関連分野の基礎・原理を体系的に理解するとともに、各コースが扱う領域の機器やシステムの構造、動作原理を理解するためのカリキュラムを設置しています。教養教育・身体科学・言語文化科目及び専門としての数学や物理・化学を礎として4力学(材料力学、流体力学、熱力学、機械力学)をはじめとする機械及びその関連周辺科目を1,2年次中心に配置し、演習及び実験・実習による理解の促進を図ります。さらに、各コースの特徴を際立たせ、その領域を幅広く、詳細に学ぶための応用科目を2,3年次中心に配置しています。さらに実験・実習科目では、実機を用いた実体験による理解に加え、レポート作成やプレゼンテーションによる表現能力の向上を図ります。</p> <p>卒業研究に関して、交通機械工学科では3年後期に所属する研究室を決定しセミナーという科目にて研究の準備を開始します。4年次を含め、時間をかけて研究対象や研究動向についての分析、調査や実験、考察を実施し、課題を発見する力や解決する力、論理的に思考する力を養うとともに、論文としてまとめる力、口頭発表する力を養います。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/06-02G_20190529.pdf)</p>

(概要)

交通機械工学科の主たる強みとして、機械工学の基礎科目、乗り物や交通に関わる応用科目、ものづくりや保守等に関わる実験・実習科目を総合的にバランスよく学ぶことできる点が挙げられます。その教育に当たり、本学科では以下のような人を求めます。

1. 高等学校までに学んだ各種科目の基本的な知識・技能を有し、本学科の専門科目における基礎から応用、実践までの内容を習得するための物理，数学などの理系の素養を有する人
2. 乗り物及びそれに関わるものやシステム，実機を通して自ら手を動かすこと、ものづくりに積極的に取り組む意欲がある人
3. 学業を通した自らの伸展・成長に喜びを感じるとともに，社会や自身を取り巻く様々な疑問や未解明のことに興味を持ち，知識や経験を継続的に発展させてこれらの解明に取り組める人

交通機械工学科への入学時には、専門科目を習得する基礎として高校までの数学及び理科の内容を理解していることが望まれます。これらに加え、国語に関することとして様々な種類の文書の理解や作成やコミュニケーションの基礎となる読解力や表現力、英語に関することとして技術文書の理解や記述の基礎となる語彙及び文法知識と読解・表現力を身に着けていることが望まれます。さらに、コンピュータによる文書作成及び情報検索、社会の仕組みや状況に関する地理・歴史、公民に関する知識を有していることが望まれます。

学部等名 工学部 都市創造工学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/en/ce/policy.html)</p>
<p>(概要) 都市創造工学科は、自然と人間との健全かつ永続的な調和と共生のもとで都市創造について幅広く考えることができ、社会に与える影響力の重要性和社会的責任とを理解・自覚し、良識と高い倫理感、かつ国際的視野をもって、自主的に課題を探究し、周りにも働きかけ、自らも解決策を見出し実践することを念頭に置き、実務的な事柄を着実に遂行できる能力を修得させることを教育目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/06-03K_20190529.pdf)</p>
<p>(概要) 学位プログラム「都市創造工学」では、教育目標を達成するために定められたカリキュラムについて、科目ごとに達成度の評価を行い、学則に従って単位を与えます。学位授与と判定は、単位数が学則、修学規定に定められた都市創造工学科の卒業要件を満たした上で、以下の項目にあげる能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 人類の豊かな生活と幸福を求めて活動することを旨として、地球的視点から考えることができる多面的な学習能力を身につけている。(多面的学習能力) (2) 技術が自然・環境へ与える影響と社会的責任とを理解・自覚し、技術者倫理の重要性を説明できる。(技術者倫理) (3) 自然科学・情報処理の基礎を習得するとともに、人文・社会科学の基礎についても深く理解している。(総合基礎学力) (4) 構造力学、建設材料学、地盤工学、水工水理学、土木計画学・交通システム工学、環境工学などの各分野の専門基礎学力を身につけている。(専門基礎学力) (5) 実験、実習並びに演習等を通じて専門応用学力を身につけている。(専門応用学力) (6) 土木工学分野での諸々の問題に取組み、実現可能な解を見つけ出ししていくためのデザイン能力を習得している。(デザイン能力) (7) 論理的かつ客観的な記述、プレゼンテーションなどを通じてコミュニケーションを行うことができる。(コミュニケーション能力) (8) 社会の変化に柔軟に対応し、自主的、継続的に学習できる。(自主的・継続的学習能力) (9) 与えられた制約のもと、課題に対して自立して計画的に取組み、期限内に成果をまとめることができる。(計画的学習能力) (10) 大阪を中心とする関西地域を例として地域の都市基盤の再生・創造技術について学び説明できる。(地域実践能力)
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/06-03K_20190529.pdf)</p>
<p>(概要) 学位プログラム「都市創造工学」では、教育目標に示された人材を育成するため、数学・自然科学の基礎、コンピュータの基礎、主要専門分野の基礎などの幅広い基礎を十分に得た上で、興味がある専門応用へと進め、さらに、豊富な実習・実験・演習を通して実務能力が得られるようにカリキュラムを構成します。また、デザイン能力への対応も考慮します。</p> <p>1年次では、幅広い知識と教養を身につけるための人文・社会を中心とした教養科目のほか、言語科目(1・2年次)、工学基礎(数学の基礎、物理学の基礎、コンピュータ基礎)科目を配置する。また、専門基礎分野科目として、土木工学における導入科目や土木工学</p>

の実務で重要な測量関係科目群を必修科目として1年次に配置します。

2年次以降は、主要専門分野（構造力学、建設材料学、地盤工学、水工水理学、土木計画学・交通システム工学、環境工学）を中心に、基礎から応用まで順次学べるように科目を配置します。各分野には、その分野で身につける基礎的内容を集約した分野別基礎科目を配置します。また、各分野には実験や演習科目を配置し、所定の単位を修得することにより実務的な能力を修得できるようにカリキュラム設計します。デザイン能力への対応科目を2年次および3年次に配置します。

4年次には「卒業研究」等を必修として配置し、上記科目の修得で得た知識を総動員して、課題の設定、それを解決するための計画設定、実行、解析、考察、結論に至るプロセスに総合的に取組ませ、自立して継続的に問題を解決できる実務的な土木技術者の養成を図ります。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/06-03K_20190529.pdf)

(概要)

学位プログラム「都市創造工学」では、都市と社会の基盤について、着想から実際の構築、さらには維持に必要な知識や技術に関する教育を行います。その教育を通じて、良識と高い倫理感を持ち、実務的な事柄を着実に遂行しながらも、幅広い視野と柔軟な考え方のできる技術者を育成したいと考えています。そこで、本プログラムでは次のような人を求めます。

(求める学生像)

1. 多くの人々が利用する道路、鉄道、空港、トンネル、橋、地下施設など多岐にわたる構造物の建設に関わる総合的な技術に興味がある人
2. 循環型社会形成を基礎とする安全で快適な都市基盤の構築、および豊かな自然の保全、健全な環境の創生、自然災害に強い都市構造の形成などに興味がある人
3. 学習を進める上で必要な素養を備えており、意欲的に学習できる人
4. 市民が安心かつ豊かな生活ができるような社会基盤づくりについての志を持ち、表現能力や協調性を備え、思いやりに富んだ人

さらに、編入学、転入学する人には以下の要件を追加します。

1. 専門分野における経歴を活かし、本学科の教育プログラムを理解した上で、都市創造工学を学ぼうとする人

入学後に、数学・自然科学の基礎やコンピュータの基礎を学習した後、専門分野の学習を行うカリキュラムが組まれている。また本プログラムの教育を通じて、幅広い視野と柔軟な考え方のできる技術者を育成したいと考えているため、高校では、自然科学などを中心に幅広く素養を身につけておくことが望まれる。

学部等名 工学部 電子情報通信工学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/en/eic/policy.html)</p>
<p>(概要) 電子情報通信工学科は、高度情報化社会を支える電子・情報・通信工学分野の基礎的素養と幅広い知識・技術を習得し、関連する分野の未来と変遷する社会ニーズに柔軟に対応でき、豊かな想像力と実学を有した人材を育成することを教育研究上の目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/06-04L_20190529.pdf)</p>
<p>(概要) 電子情報通信工学科は、基礎学力および電気電子工学および情報通信工学分野における以下の幅広い知識・技術を修得し、変化する社会ニーズに対応できる能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 電気電子工学分野と情報通信工学分野の技術者としての役割を理解し、社会に貢献できる能力を持っている。 (2) 数学、物理学、化学、情報などの工学的基礎知識を修得している。 (3) 電気工学、電子工学、情報工学などの専門分野における内容を理解している。 (4) 電気電子工学分野に関する電力・エネルギー、計測・制御、物性・電磁波などの知識を修得している。 (5) 情報通信工学分野に関する情報の活用や情報通信・ネットワークに関わる知識を修得している。 (6) 実験・実習を通して、電気電子工学分野・情報通信工学分野の実学的な知識を習得している。 (7) 論理的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など技術者として必要な能力を身につけている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/06-04L_20190529.pdf)</p>
<p>(概要) 電子情報通信工学科では、学科科目を共通科目群、電気電子工学科目群、電子情報工学科目群、専門総合科目群と分類し、電気電子情報工学分野の基礎から応用まで幅広く学習するカリキュラム体制としています。</p> <p>1年次では、人文科学・社会科学などの教養科目のほか、言語文化科目さらに、工学分野の基礎として数学、物理学、化学を配置しています。また、学科の教育内容を概観する科目として電気電子情報工学入門、電気電子情報工学分野の導入科目として回路の基礎を配置しています。</p> <p>2年次には、電気電子情報工学分野の中心基礎科目として電気回路、電磁気学、計算機工学を配置しています。また電気電子工学コースと電子情報工学コースの2つのコースを設置し、中心基礎科目からそれぞれの専門応用科目へつなげるための専門基礎科目を配置しています。</p> <p>3年次からは、電力・エネルギー、計測・制御、物性・電磁波や情報通信・ネットワークの各分野に体系的に学べるように専門応用科目群を配置しています。電気電子工学科目群あるいは電子情報工学科目群の科目を選択して履修するようになっています。また、電気電子情報工学ゼミナールを配置して卒業研究の準備としています。</p> <p>また、専門総合科目群として1年次から3年次にかけて、実験・演習科目を配置しています。これらの科目で測定装置の使い方やデータの収集法を身につけ、基礎実験から応用的な実験まで幅広く取り組みます。さらに、レポート作成を通し、論理的な思考力、文章の作成方法を学習します。</p> <p>4年次では、卒業研究を実施し、これまでに修得した内容をもとに研究課題の調査・設定</p>

を行い、具体的に設定した研究課題に対する答えを自ら模索し探究する課程を通して、継続的に問題を解決できる技術者の育成を目指しています。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/file/fc/06-04L_20190529.pdf)

(概要)

電子情報通信工学科は、電気電子工学分野と情報通信工学分野の基本をしっかりと身につけた「電気電子工学」と「情報通信工学」分野の技術者の育成を行い、現代社会を支える科学技術をリードする電気電子および情報通信工学のエキスパートの育成を目指しています。そのため、以下のような学生を求めます。

【求める学生像】

- (1) 工学の基礎となる数学、理科の素養を有している人。
- (2) 電気回路や電子回路に興味がある人。
- (3) 電力・エネルギー分野について興味のある人
- (4) コンピュータや情報について興味がある人。
- (5) 新しいものやシステムを作りたいと考えている人。
- (6) 社会に役立つ技術者になりたいと考えている人。

【高校までに習得すべき学力水準】

電子情報通信工学科への入学時には、以下の内容を理解していることを望みます。工学の基礎科目として、高校までの数学、物理、化学の基本的内容が必要です。レポート作成のためには、内容を的確に表現し説明するための文章力や読解力が必要です。さらに、技術文書を読むために英語の基礎的語彙、文法知識なども必要となります。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.osaka-sandai.ac.jp/info/public/archive/2019.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
国際学部	—	12人	11人	1人	0人	0人	24人
スポーツ健康学部	—	7人	7人	3人	0人	0人	17人
経営学部	—	16人	10人	4人	0人	0人	30人
経済学部	—	20人	7人	0人	0人	0人	27人
デザイン工学部	—	21人	15人	6人	0人	0人	42人
工学部	—	30人	8人	16人	0人	0人	54人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		510人					510人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： http://kenkyu.osaka-sandai.ac.jp/scripts/websearch/index.htm					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>教学マネジメント委員会の下にFD部会を設置し、FD活動に関する全学的な計画の策定や、具体的なFD研修の企画立案及び実施をしている。</p> <p>また、学生に授業改善のためのアンケートを実施し、評価の高かった教員に対しては表彰を行うなど、積極的な授業改善を促すための取り組みを行っている。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人間環境学部	-人	-人	-%	420人	343人	81%	-人	-人
国際学部	100人	101人	101%	310人	297人	95%	10人	1人
スポーツ健康学部	150人	153人	102%	460人	458人	99%	10人	0人
経営学部	485人	522人	107%	2,025人	2,119人	104%	30人	11人
経済学部	475人	486人	102%	2,005人	2,025人	100%	25人	1人
デザイン工学部	290人	299人	103%	1,130人	1,133人	100%	30人	3人
工学部	425人	430人	101%	1,765人	1,735人	98%	35人	3人
合計	1,925人	1,991人	103%	8,115人	8,110人	99%	140人	19人
(備考)								
人間環境学部は、平成29年4月1日から学生募集停止を行い、それに伴い、国際学部、スポーツ健康学部及びデザイン工学部内に新たな学科を1学科新設した。								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人間環境学部	245人 (100%)	8人 (3.3%)	187人 (76.3%)	50人 (20.4%)
経営学部	360人 (100%)	8人 (2.2%)	314人 (87.2%)	38人 (10.6%)
経済学部	390人 (100%)	16人 (4.1%)	309人 (79.2%)	65人 (16.7%)
デザイン工学部	185人 (100%)	2人 (1.1%)	173人 (93.5%)	10人 (5.4%)
工学部	363人 (100%)	16人 (4.4%)	324人 (89.3%)	23人 (6.3%)
合計	1,543人 (100%)	50人 (3.2%)	1,307人 (84.7%)	186人 (12.1%)
<p>(主な進学先・就職先) (任意記載事項)</p> <p>【人間環境学部、経営学部、経済学部】 主な進学先：神戸大学大学院、関西大学大学院、大阪市立大学大学院 主な就職先：阪急電鉄株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、南海電鉄株式会社、北海道旅客鉄道株式会社、ソフトバンク株式会社、株式会社伊藤園、日本通運株式会社、株式会社ファミリーマート、フジパンググループ本社株式会社、日本郵便株式会社、大阪シティ信用金庫、セコム株式会社、株式会社大塚商会、住友電気工業株式会社、豊田合成株式会社、大阪府庁、大東市役所、大阪府警察本部、兵庫県警察本部、京都府警察本部</p> <p>【デザイン工学部、工学部】 主な進学先：兵庫県立大学大学院、立命館大学大学院、大阪産業大学大学院 主な就職先：本田技研工業株式会社、ダイハツ工業株式会社、日野自動車株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、東海旅客鉄道株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、シャープ株式会社、株式会社IHI、株式会社きんでん、株式会社日立ビルシステム、バンドー化学株式会社、日亜化学工業株式会社、Sky株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社遠藤照明、NTN株式会社、ライト工業株式会社、国土交通省近畿地方整備局、兵庫県庁、大東市役所</p>				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>【作成過程】</p> <p>専任教員：委員会や教授会等を通じて「シラバス作成要領」を配布し、教員自身で必要事項を記入する。</p> <p>特任教員・非常勤講師：学内連絡や担当教員を通じて「シラバス作成要領」を配布し、教員自身で必要事項を記入する。</p> <p>【作成・公開時期】</p> <p>作成期間は1月中旬～2月初旬に実施し、確認や修正作業を経た後、3月下旬から公開している。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>本学における学士課程の授業科目は、各開講学科の卒業の認定に関する方針における位置付けを履修系統図で示しており、また、卒業の認定に関する方針および教育課程の編成及び実施に関する方針に則した授業内容や到達目標を設定し、授業計画で公表している。</p> <p>単位授与・成績評価の際は、これらを踏まえて、授業計画で併せて公表している成績評価基準に基づき到達度を評価している。</p> <p>以上のことは、各学部等で同様の取扱いをしている。（再掲）</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学の卒業の認定に関する方針は、『学士課程教育の構築に向けて』（2008年中央教育審議会答申）で示された「学士力」指針や、日本学術会議による「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準」を参考にしながら、学科ごとにそれぞれの専攻分野の特性を踏まえて策定し、公表している。</p> <p>また、学科ごとに策定している履修系統図により、卒業の認定に関する方針と教育課程の関係を明示しており、それに基づき所定の単位を修得した学生について学修成果を認め、各学部の卒業判定会議を経て卒業認定・学位授与を実施している。</p> <p>以上のことは、各学部等で同様の取扱いをしている。（再掲）</p>

学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人間環境学部	文化コミュニケーション学科	124 単位	①・無	22 単位/セメスター (1~6 セメスター) 24 単位/セメスター (7, 8 セメスター)
	生活環境学科	124 単位	①・無	22 単位/セメスター (1~6 セメスター) 25 単位/セメスター (7, 8 セメスター)
	スポーツ健康学科	124 単位	①・無	26 単位/セメスター (年間 50 単位)
国際学部	国際学科	124 単位	①・無	24 単位/セメスター
スポーツ健康学部	スポーツ健康学科	124 単位	①・無	24 単位/セメスター
経営学部	経営学科	124 単位	①・無	48 単位/年間
	商学科	124 単位	①・無	48 単位/年間
経済学部	経済学科	124 単位	①・無	48 単位/年間
	国際経済学科	124 単位	①・無	48 単位/年間
デザイン工学部	情報システム学科	124 単位	①・無	48 単位/年間
	建築・環境デザイン学科	124 単位	①・無	48 単位/年間
	環境理工学科	124 単位	①・無	48 単位/年間
工学部	機械工学科	124 単位	①・無	48 単位/年間
	交通機械工学科	124 単位	①・無	48 単位/年間
	都市創造工学科	124 単位	①・無	48 単位/年間
	電子情報通信工学科	124 単位	①・無	48 単位/年間
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		本学学則及び「大阪産業大学GPA制度の取扱いに関する規程」により、GPAによる退学勧告制度を設けている。 公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/life/ins/b_bord/report.html		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		2016 年度より大学 IR コンソーシアムに加盟し、同コンソーシアムが企画する学生調査 (アンケート) を実施している。アンケート項目の中で、特に学修時間や学修成果に関する調査結果を重視し分析を行うとともに、その結果を Web サイトで公表している。 公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/info/public/ir_info/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.osaka-sandai.ac.jp/info/public/archive/2019.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
人間環境 学部	文化コミュニケーション学 科 生活環境学科 (H28年度入学者)	728,000円	-円	193,000円	教育環境充実費
	文化コミュニケーション学 科 生活環境学科 (H27年度以前入学者)	746,000円	-円	197,000円	教育環境充実費
	スポーツ健康学科 (H28年度入学者)	858,000円	-円	263,000円	教育環境充実費
	スポーツ健康学科 (H27年度以前入学者)	881,000円	-円	269,000円	教育環境充実費
国際学部	国際学科 (入学年度)	786,000円	250,000円	51,000円	教育環境充実費
	国際学科 (2年目以降)	786,000円	-円	272,000円	教育環境充実費
スポーツ 健康学部	スポーツ健康学科 (入学年度)	897,000円	250,000円	76,000円	教育環境充実費
	スポーツ健康学科 (2年目以降)	897,000円	-円	328,000円	教育環境充実費
経営学部	経営学科 商学科 (入学年度)	786,000円	250,000円	39,000円	教育環境充実費
	経営学科 商学科 (2年目以降・ H29年度以降入学者)	786,000円	-円	257,000円	教育環境充実費
	経営学科 商学科 (H28年度入学者)	715,000円	-円	183,000円	教育環境充実費
	経営学科 商学科 (H27年度以前入学者)	734,000円	-円	187,000円	教育環境充実費
経済学部	経済学科 国際経済学科 (入学年度)	786,000円	250,000円	39,000円	教育環境充実費
	経済学科 国際経済学科 (2年目以降・ H29年度以降入学者)	786,000円	-円	257,000円	教育環境充実費
	経済学科 国際経済学科 (H28年度入学者)	715,000円	-円	183,000円	教育環境充実費
	経済学科 国際経済学科 (H27年度以前入学者)	734,000円	-円	187,000円	教育環境充実費
デザイン 工学部	情報システム学科 建築・環境デザイン学科 環境理工学科 (入学年度)	1,052,000円	250,000円	128,000円	教育環境充実費
	情報システム学科 建築・環境デザイン学科 環境理工学科 (2年目以降・ H29年度以降入学者)	1,052,000円	-円	388,000円	教育環境充実費
	情報システム学科 建築・環境デザイン学科 環境理工学科 (H28年度入学者)	989,000円	-円	316,000円	教育環境充実費
	情報システム学科 建築・環境デザイン学科 環境理工学科 (H27年度以前入学者)	1,016,000円	-円	324,000円	教育環境充実費

工学部	機械工学科 交通機械工学科 都市創造工学科 電子情報通信工学科 (入学年度)	1,052,000円	250,000円	128,000円	教育環境充実費
	機械工学科 交通機械工学科 都市創造工学科 電子情報通信工学科 (2年目以降・ H29年度以降入学者)	1,052,000円	-円	388,000円	教育環境充実費
	機械工学科 交通機械工学科 都市創造工学科 電子情報通信工学科 (H28年度入学者)	989,000円	-円	316,000円	教育環境充実費
	機械工学科 交通機械工学科 都市創造工学科 電子情報通信工学科 (H27年度以前入学者)	1,016,000円	-円	324,000円	教育環境充実費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>《学生に対する相談・指導》 教務課窓口では履修相談を始め、時間割や授業についての相談を受け付けており、学生が不 便なく修学に取り組めるよう支援している。また、単位修得状況が芳しくない学生について は面談を実施し、当該学生に適した修学指導も行っている。</p> <p>《各種情報発信》 本学では、ポータルシステムという Web 上の総合案内システムを設けており、Web 上で各種 情報（時間割、休講、補講、教室変更など）を発信し、瞬時に学生へ必要な情報が行き渡る ようにしている。</p> <p>《障がいを持つ学生の支援》 聴覚に障がいのある学生への情報保障支援としてノートテイクによるサポート体制を整備 している。</p> <p>《履修科目選択の支援》 本学では、学生の合理的な履修科目選択を支援するため、カリキュラムの体系性・順次性を 明らかにした「カリキュラムツリー」の作成および学問分野や履修年次等を表す「科目ナン バー」の付与を実施し、公表している。</p> <p>《連携部署における修学支援》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等教育センターによる入学前教育の実施 ・学習支援センターによる基礎科目の学習相談・指導の実施 ・ネイティブ・スピーカー在駐のランゲージ・カフェの設置
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>○キャリアガイダンス 3年生を対象に計6回のガイダンスを実施。履歴書・エントリーシート・面接対策など、それ ぞれのポイントを定めた内容で実施。また、SPI試験対策も実施。</p> <p>○学内合同企業説明会（鉄道合説、企業100選合説含む） 毎年約700社（延べ数）の企業が参加。学生と企業とのマッチング機会を設けている。</p> <p>○就職スキルアップ講座 外部講師を招き、1日完結型（3日間開催）でスキルアップ講座を実施、グループワークを中 心に集団面接等本番さながらの内容で実施。</p>

<p>○業界研究セミナー 学生の進路実現に向けて、各業界の企業様を迎え、各業界の展望等について説明を頂いている。</p> <p>○留学生対象合同企業説明会、就職ガイダンス 合同企業説明会は計3回実施。留学生を積極的に採用する企業を招き、学内にて説明会を実施。就職ガイダンスは全学年対象に実施（年1回）</p> <p>○キャリアカウンセラー有資格者による個別面談・特別講座の実施 キャリアカウンセラー有資格者が学生個々の状況に合わせ進路指導を行っている。また、キャリアカウンセラーによる、少人数制の特別講座を実施（履歴書・エントリーシート対策）※留学生用も実施</p> <p>○インターンシップ 就職意識の高い学生がインターンシップに参加。事前学習3回、インターンシップ報告会も実施。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>（概要） 学生の心の悩みには、予約制のカウンセリングを実施。専門カウンセラーがプライバシーを守り、学生相談室や保健管理センターのカウンセラー、コーディネーター、看護師等が連携を取りつつ相談に応じている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.osaka-sandai.ac.jp/info/public/archive/2019.html>